

25 journal

society&business Tokyo25 journal
執筆協力 編集室システムU okamura.nobuyoshi@gmail.com

障害者支援施設の
青梅学園や通所施設
の「かすみの里」を運
営する社会福祉法人南

障害福祉の理解と充実にまい進 社会福祉法人南風会が創立60周年



関係者約100人が出席した記念式典。大勢待市長や森村都議、野村有信元都議、山下英夫元青梅市議長ら多くの来賓が訪れ、同法人の更なる発展に期待を寄せた

風会(青梅市新町)の創立60周年記念式典が10月26日、同学園地域交流スペースで開かれた。関係者約100人が、障害福祉の理解と充実にまい進してきた歩みを振り返り、障害者と共に生きる社会づくりを目指してさらなる飛躍を誓った。



同法人は1964(昭和39)年に開園。1981(昭和56)年には重度精神薄弱児緊急一時保護の委託契約事業を始めた。1998(平成10)年に精神薄弱者入所更生施設「かすみの里」多機能型通所施設「かすみの里」2009(平成21)年に障害福祉サービス共同生活援助・共同生活介護「ケアホーム南風」、2010(平成22)年に相談支援事業所「くらのやしき」、2014(平成27)年に「シヤロームみなみ風」を開設した。



法人の歩みをスライドショーで紹介する山下常務理事

この間、理事長は山下常太郎氏、山下勉氏と続き、現在の指田理事長は17(同30)年から任に当たっている。式典で指田理事長は「法人が拡充し60周年を迎えられたのは、多くの皆さんの温かい支援のおかげ。今後も利用者のために障害者福祉の向上に努め、さらなる発展を目指し職員一同全力を尽くしていく」とあいさつした。来賓あいさつで、大勢待利明青梅市長は「施設入所者が地域で、そして親亡き後にも安心に暮らせるために努力を重ねている南風会に敬意を表する」と感謝した。森村隆行都議は「学園が創立した60年前は、社会の障害者への受け止めが今とは随分違っており、関係者の血のじむ努力で現在の共生社会への道が開かれた」と評価した。

この後、同法人の歩みをスライドショーで紹介しながら山下常務理事が解説。「障害のある利用者がその人らしい個性や持っている力を発揮し、幸福な人生を送ってもらえるよう専門的なサポートを行っている」と報告した。



青梅間税会のゴルフコンペが10月8日、立川国際カントリー倶楽部(あきる野市草花)で開催された。37人が参加し写真。新ペリア方式で行われ、18ホールで打数を競った。当日はあいにくの小雨模様。それでも気持ちを切り替え、参加者らは和気あいあいと元気いっぱいプレーを展開。ゴルフを楽しみ、

中村敦正さんが優勝

交流を深めた。中村敦正さんがネット70・6(クロス91)で優勝。72・4で2位となった岩本茂正さんが82でベストクロス賞を獲得。3位は同73・6(同88)で小林貴純さん、4位は同74・4(同96)で指田勇さん、

ランドセル贈る たくさんの鉛筆も
ジャズバンド「クニバン」、羽村でチャリティーコンサート
ジャズをメインに国立市周辺で音楽活動を行う「クニバン(国立バンド)」の「ランドセルチャリティーコンサート」が10月26日、羽村の「プリモホールゆとりぎ」(羽村市緑ヶ丘)で開催された。80人余りがジャズと共演の弦楽四重奏の演奏を楽しんだ。



クニバンと弦楽四重奏の共演

成。当日は、バンドのテーマソングにもなっている「Cantaloupe Island」で幕開け。「枯葉」「カノン」などのスタンダードを披露した。後半は「タイプライター」などを弦楽四重奏と共演した。

援助を必要とする家庭にランドセルを贈るチャリティーコンサートは2017(平成29)年から国立で年1、2回ほど開いてい



ランドセルと鉛筆を贈る。今回は大和田さんが経営する会社が羽村市内にあることから同市文化祭に合わせて開催した。

が橋本弘山羽村市長に男子用と女子用のランドセル1つずつを手渡した。大和田さんと親交が深い田村実さんが手揚げ袋いっぱいの鉛筆を寄贈した。

演奏後、観客の寄付を元に購入したランドセルの贈呈式を行い、大和田さん